

那覇市が取り組む

「校区まちづくり協議会支援事業」 について

那覇市まちづくり協働推進課

2019.7.18



那覇市が推進する「協働によるまちづくり」



まちづくりの主体・担い手は、ほかならぬ市民であるということが「協働によるまちづくり」の原点です。

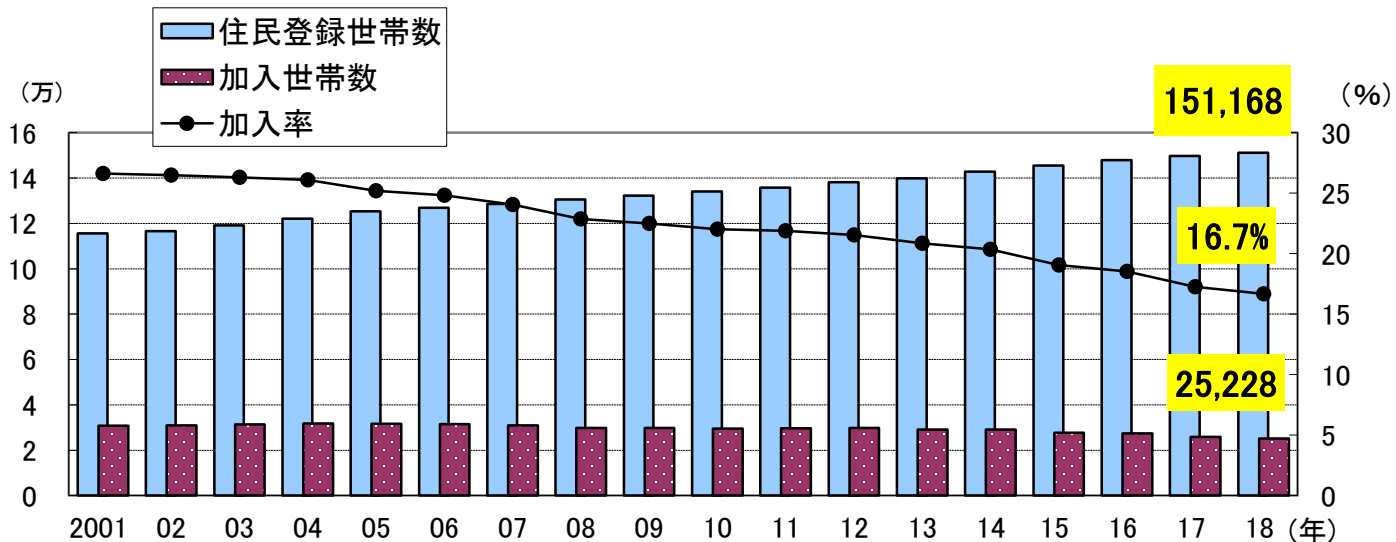
地域の課題を発見・共有し、みんなで考え協力して解決するためには、よりよいまちづくりというベクトルを社会全体で共有しながら、市民力・地域力の向上を図ることが必要です。

まちづくり協働推進課では、「協働によるまちづくり」を具現化する施策として、**「校区まちづくり協議会支援事業」**、「自治会活動育成事業」、「人材データバンク(モデル)事業」、「那覇市協働大使委嘱事業」、「なは市民協働大学・大学院」、「なは市民活動支援事業」など、様々な施策を展開しています。



那覇市の自治会加入率の現状

- * 自治会の加入率の低下
- * 次世代の担い手不足
- * 地域のコミュニティの希薄化



自治会の加入率と加入世帯数推移

「校区まちづくり協議会」とは

各小学校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々に構成する団体が、それぞれの目的や活動を尊重し合い、緩やかに連携・協力しながら、合意形成を図ったうえで、地域の課題解決を図っていくことを目的として、自主的に設立した組織

校区まちづくり協議会支援事業

市内10の小学校区まちづくり協議会において、特色ある活動を実践しています！



夏休み学校ラジオ体操



運営委員会

まちづくり協議会構成団体

行政
(市役所)

支所
公民館等

補助金
【運営・事業】

支援

アドバイザー
派遣

〇〇校区
まちづくり協議会

- ・自治会・通り会
- ・老人会・婦人会

地縁団体

学校関係
団体

- ・小学校・中学校
- ・PTA・子ども会
- ・青少協

福祉健康関係
団体

- ・民生・児童委員
- ・健康づくり推進員

安全安心
関連

- ・自主防災組織
- ・交通指導員

協働

- ・協働大使
- ・協働大学（院）卒業生

環境

- ・公園・道路ボランティア団体
- ・エコライフサポーター

様々な分野の
NPO

事業所・企業等



なはで暮らし、働き、育てよう！
笑顔広がる元気なまち NAHA
～ みんなでつなごう市民力～

第5次 那覇市 総合計画

2018（平成30）年



 那覇市

まちづくりの姿勢 02

本計画の推進に当たっては、まちづくりの担い手一人ひとりを結びつける「絆」が重要となります。互いの絆が深まれば、全ての施策の成果がジグソーパズルのようにつながり、やがて面として、

市全体に広がります。次の5つの絆を築いていくことをまちづくりの基本的な姿勢とします。

協働の絆

情報の共有と対話の積み重ねにより、互いの信頼を深めながら、地域への愛着と誇りを持ち、様々な担い手の特性を活かした連携の輪をつなぎます。

平和の絆

過去の苛烈な体験を胸に刻み、先人の平和を願う強い想いを引き継ぎ、さらに発信することで、次代を担う子ども達が安心して暮らせる未来を創ります。

共生の絆

寛容の心が広がり、世代や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、また、性の多様性を尊重し、全ての人々に優しい社会を築きます。

活力の絆

まちの活性化に資する地域資源を最大限に活用し、まち全体が市民の笑顔と活気にあふれ、明日への活力がすみずみまで連鎖する社会を築きます。

共鳴の絆

地域や他自治体の好事例を学び、気づきを共有するとともに、積極的なチャレンジにより成功体験を重ねながら、発展に向けた人々の想いを響かせます。





政策

小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり

未来への視点	
つながる力	☆
稼ぐ力	○
ひきつける力	○

施策1

自治会や校区まちづくり協議会などが活発に活動するまちをつくる

施策概要

●協働によるまちづくりを推進するうえで、核となる自治会のさらなる活性化や校区まちづくり協議会を全市域に広げることで、地域の新しい

人のつながりを発見し、更なる地域コミュニティの活性化を図ります。

現状と課題

- 自治会では、主に親睦事業、環境美化活動、教育、防犯・防災活動、福祉活動を実施し、地域コミュニティの核として様々な事業を行っています。近年、自治会の加入率は低下傾向ではあるものの、子どもを対象とした「学事奨励事業」や高齢者を対象とした「地域見守り活動」に代表される自治会活動は、地域の親睦を深め、安全安心に生活できる環境づくりに寄与しています。
- 現在、核家族化や少子高齢化など、急激に変化する社会情勢のなか、地域コミュニティの希薄化が叫ばれています。本市では、この問題に対応するため、これまでの枠を超えた新たなコミュニティとして「校区まちづくり協議会」を展開しています。2016(平成28)年度に「小学校区コミュニティ基本方針」を策定し、「校区まちづくり協議会支援事業」を市の重要施策として展開し、将来的には市内全域で協議会が立ち上がり、活発な地域活動が広がっている姿を目指しています。
- 校区まちづくり協議会は、校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々で構成する団体が、

それぞれの目的や活動を尊重し合い、緩やかに連携・協力しながら、合意形成を図ったうえで、地域の課題解決を図っていくことを目的として自主的に設立しており、2017(平成29)年6月末現在、市内には6小学校区あります。各校区では、多様な地域の特色を活かし「学習支援事業」や「美化活動」などを実施しています。

- 自治会・校区まちづくり協議会等の地域コミュニティにおいては、新たな若い人材の発掘が必要とされています。
- NPO活動支援センターと協働大使活動支援センターを統合した「なは市民活動支援センター」を協働によるまちづくりの拠点となる「なは市民協働プラザ」内に設置し、NPOを含む全ての市民活動の支援を展開しています。
- まちづくり活動に携わる市民活動団体への支援体制の構築が検討課題です。

関連条例等

- ◆協働による那覇のまちづくりのために
- ◆いっばすんだ協働のための手引き書
- ◆小学校区コミュニティ推進基本方針



街の人の声

小中学校区を単位とした人のつながりをつくっていく。

取組の柱と方針

1 自治会や校区まちづくり協議会などの活性化

- 校区内で活動する自治会、PT(C)A及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々で構成する団体が、合意形成を図ったうえで、主体的に校区まちづくり協議会を設立する際に、当該協議会に対する助言等の支援を行います。
- 校区まちづくり協議会を全市域に広げていくために、協議会設立、運営及び活動に対しての支援、財政的支援(補助金の交付)、アドバイザーの派遣等、多様な地域特性を尊重し、その特性に応じた効果的な支援を継続します。さらに、小学校区ごとのカルテづくりを行い、地域の強みや特性等の実態を把握し、校区まちづくり協議会設立に向けたきめ細やかな支援を行います。
- 校区まちづくり協議会支援事業では、その活動状況を広報紙に掲載するなど、協議会設立の機運が地域で高まるよう、周知・広報に努めます。さらに、各協議会の役員等が一堂に会する意見交換会を年1回開催し、各協議会の取り組みや効果的な事例を共有する場を提供しています。これらの取り組みは、新規立ち上げを検討している方への情報提供や関係づくりの場にもなっていることから、今後も

このような自発的な組織結成のための仕組みづくりに努めてまいります。
●那覇市自治会長会連合会及び各自治会の活性化を支援します。
●多様な団体で構成する校区まちづくり協議会の活動を促進することで、自治会等の団体の新しい人材の育成・発掘に努めます。

2 まちづくり団体の連携を促進する環境づくり

- なは市民活動支援センターを拠点に、市民活動団体間の連携を促進する環境づくりを進めます。
- 楽しくまちづくり活動を実践するための周知・広報に努めます。
- まちづくり活動に関する地域の情報を積極的に発信します。
- まちづくり活動を行う団体への人的・財政的支援を積極的に行います。
- 環境美化や自主防災組織等、地域で活動している団体に対する支援を継続します。
- 企業による地域貢献活動については、企業が地域づくり・まちづくりに積極的に参加することを促すよう、事例の周知・広報に努め、更なる促進を図ります。

取り組みの活動状況を見る指標

指標	基準値 (基準年度)	中間目標値 (2022年度)	最終目標値 (2027年度)
市民等と行政が協働しておこなった事業などの件数(累計)	265件 (2016年)	320件	370件
校区まちづくり協議会設立校区数(累計)	6校区 (2016年)	20校区	36校区
なは市民活動支援センターの延べ利用件数(人数)	2,975件 (19,923人) (2016年)	4,500件 (30,000人)	6,000件 (40,000人)

用語解説

- 協働によるまちづくり
市民、事業所、市民活動団体等の地域の構成員と行政が、それぞれ対等で主体的にまちづくりを担っていくという考えです。協働とは、お互いのできることを持ち寄り、楽しみながらまちづくりに参加することです。
- 那覇市民活動支援センター
市民による自主的・営利目的としない、協働によるまちづくりのための社会貢献活動を行う拠点として「なは市民協働プラザ」内に設置している施設です。



小中学校区まちづくり協議会準備会ワークショップ

設立校区及び応募状況

H22～26 小学校区コミュニティモデル事業

地域の様々な団体が緩やかに連携し、地域の課題把握と解決を図る

- ・ H23.3月 ①与儀小学校区
- ・ H23.7月 ②石嶺小学校区
- ・ H24.10月 ③若狭小学校区
- ・ H25.2月 ④銘苅小学校区

H27～ 校区まちづくり協議会支援事業

- ・ H26.3月 ⑤曙小学校区
- ・ H28.5月 ⑥仲井真小学校区
- ・ H30.4月 ⑦城西小学校区
- ・ H30.10月 ⑧小祿南小学校区
- ・ R1.6月 ⑨天妃小学校区 ⑩城南小学校区

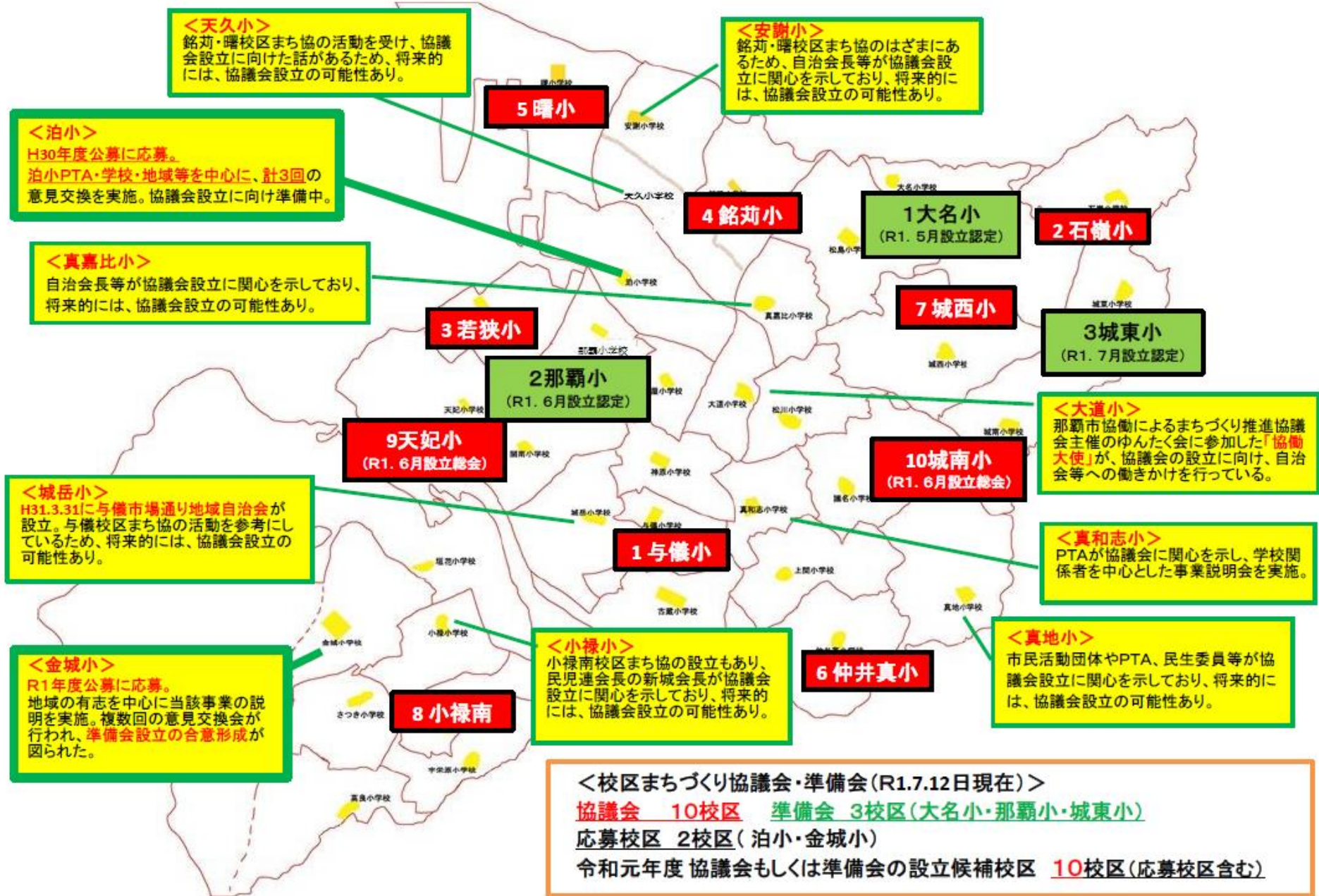
補助金（平成31年度）
協議会：年額 834,600円
準備会：年額 240,600円

令和元年7月12日現在

- ・ 準備会3校区・・・大名小、那覇小、城東小
- ・ 応募 2校区・・・泊小、金城小

※準備会とは・・・地域での合意形成を図るため、地域住民がワークショップ等を行いながら、協議会の設立を目的としている組織。

校区まちづくり協議会設立状況及び候補校区(R1.7.12現在)



校区まちづくり協議会の立ち上げまで(例)

地域(小学校区)で合意形成を図ろう

小学校区内で活動する個人・団体等と情報共有・合意形成を図り、地域の課題解決に向けた組織の設立に向け話し合いを行う。

4月

準備会設立

5月

①ワークショップ(地域の自慢や強み)

6月

②ワークショップ(地域の課題や悩み)

7月

8月

③ワークショップ
(課題改善に向けて地域でできること)

9月

10月

11月

④組織体制の確立、会則、事業計画、
予算の作成など

12月

1月

2月

3月

協議会設立

- ・ 準備会～協議会設立まで1年をかけたスケジュールを想定。
- ・ 引き続き、市の事業説明や地域での合意形成を図りながら、地域課題の洗い出しを目的にワークショップ等を開催する。
- ・ ワークショップ等は、地域の特性や意見を尊重したうえで、手法は変更できる(地域の実情に応じた内容となります)。
- ・ ワークショップ後は、協議会設立に向けた手続きや下記メニューの中から、地域が要望する回を設け、設立準備に取り掛かる。

MENU

A:市長とゆんたくタイム

B:防災講話・自主防災組織
HUG(避難所運営ゲーム)

C:放課後子ども総合プラン

D:地域のフィールドワーク

E:他協議会からのアドバイザー

番外:懇親会(仲良くなろう!!)

第1回ワークショップ「わったー城西地域の自慢・強み」 みんなで地域の自慢・強みについて語り合おう！



第2回ワークショップ「城西地域の課題・悩み」 みんなで地域の課題について話し合おう！



第3回ワークショップ「目的を振り返り、共通認識を図ろう！」



第4回ワークショップ 防災講話「自主防災組織について」・協議会設立に向けて



城西小学校区まちづくり協議会設立総会



那覇市城西小学校区 まちづくり協議会設立総会 平成30年4月17日(火) 於：首里公民館

各校区まちづくり協議会の主な取り組み(平成30年度)

- ①**与儀**小校区 地域一斉清掃、よぎっ子まつり、学事奨励会、広報紙作成、防犯パトロール、よぎトックリキワタまつり、地域交流会、認知症予防講座、ブロック塀点検作業等
- ②**石嶺**小校区 花植え作業、健康相談コーナー、道路ボランティア、広報紙作成、ラジオ体操、グラウンドゴルフ大会、応急法講習会等
- ③**若狭**小校区 土曜朝塾、合同パトロール、まちかど特定検診、地域花いっぱい運動、フラワーポット事業、広報誌作成、ヤールーキャラバン等
- ④**銘苅**小校区 避難行動要支援者事業、新都心ごみ拾いクリーンデー等
- ⑤**曙**小校区 寺子屋教室、ラジオ体操、立哨活動、うみそら上映会inあけぼの、通学路安全パトロール、ちょこっとハロウィン、曙っ子ふれあい祭り、CGG運動、チャリティグラウンドゴルフ大会等
- ⑥**仲井真**小校区 国場川クリーンアップ作戦、安全・安心パトロール事業、広報誌の発行等
- ⑦**城西**小校区 地域清掃活動、地域交流会、地域探訪、龍潭を楽しむ会、フラワーポット贈呈式、グラウンドゴルフ大会等
- ⑧**小祿南**小校区 地域防災講話、美化清掃活動等

各校区まちづくり協議会の活動状況とその効果

1 地域の絆が深まり、繋がること

2 団体間の情報共有と連携強化

地域課題への対応

- ①地域の美化・清掃
- ②防犯・防災活動
- ③住民同士の交流
- ④団体間の連携
- ⑤子どもに関すること
- ⑥高齢者に関すること
- ⑦その他

3

4 人材の発掘と育成

5 近隣校区への波及と校区同士の情報共有

各校区まちづくり協議会からの声（意見交換会より）

校区まちづくり協議会の各代表より

【大切だと思うこと】

- 人と人とのつながり
- 事務局が機能すること
- 子供たちやお年寄りが活動できる場があること
- 地域の横の連携（地域企業との連携）
- 地域と学校の連携（開かれた学校、拠点施設）
- 広報すること（伝えること）
- 楽しさと喜びの積み重ね
- 熱い思い
- 無理をしないこと

各校区まちづくり協議会からの声（意見交換会より）

校区まちづくり協議会の各代表より

【課題】

- ・財源の確保
- ・若者の人材不足、役員の高齢化
- ・地域活動への負担感（同じ顔ぶれで複数の集まり）
- ・企業をどう巻き込むか

【行政への要望】

- ・市職員の積極的な地域活動への参加
- ・事務局手当てを出してほしい
- ・学校の受け入れ体制の改善

活動内容が違う他の校区との交流で、相乗効果を生む。
学びあいでも新たにに取り組む内容や工夫等が期待される。

協働によるまちづくりの 10年後のイメージ

～みんなでつなごう市民力～



地域コミュニティ組織

- ・自治会、通り会、PTA
- ・ボランティア団体など



協働大使

(協働によるまちづくり推進協議会)

校区まちづくり協議会

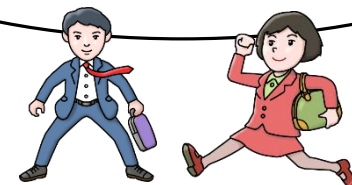
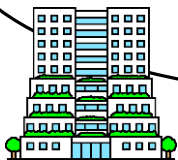
那覇人



行政関係機関

- ・市役所、学校、公民館
- ・なは市民活動支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・地域包括支援センターなど

社会教育指導員・民生委員・
交通指導員 等
NPO・企業・事業所 等

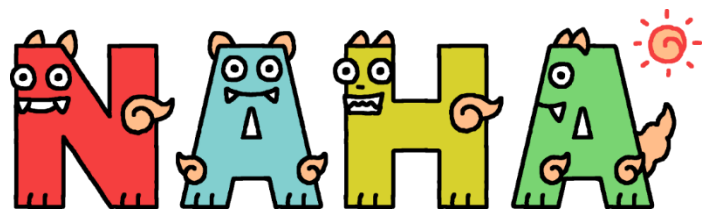




～求む 那覇人～

脱マンネリ！地域に新たな風をおこそう

ご清聴ありがとうございました。



令和元年7月18日
まちづくり協働推進課